

1 調査目的等

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 学校における学力向上に向けての取組

【授業づくり】

- ・授業のグランドデザイン(めあて～振り返り)に基づいた授業展開の実施
- ・CD層の生徒にも思考活動にスムーズに取り組めるような、ICTを効果的に活用した授業展開の工夫

【学力の基盤づくり】

- ・基礎的・基本的な知識・技能を習得するための朝のモジュール学習と家庭学習の連動

【家庭学習の充実】

- ・CD層を中心とした個別の家庭学習の取り組み方についての教育相談の実施
- ・校区で取り組むノーメディアチャレンジ週間の実施

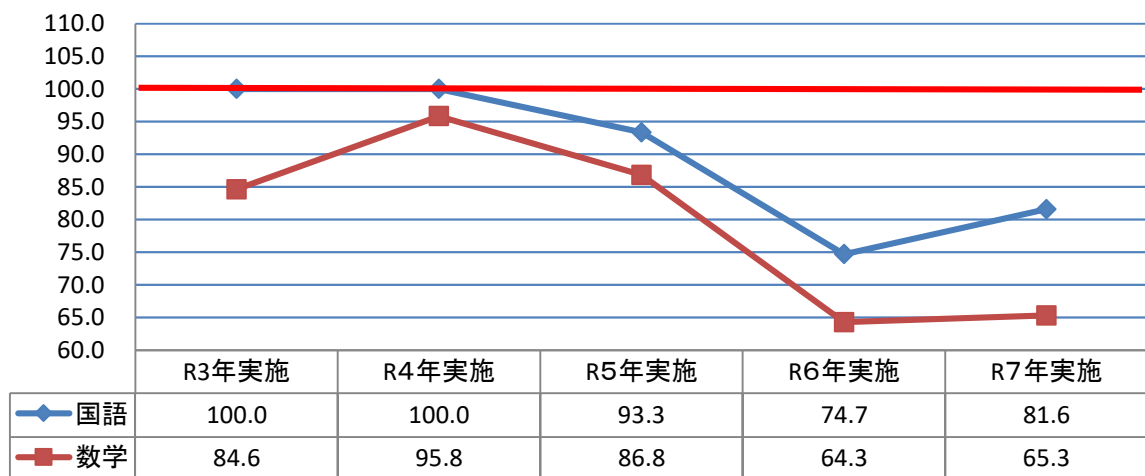
【組織づくり】

- ・学力向上に向けた取組の検証や改善をするための、学力向上検証委員会の実施

3 調査結果(全国の平均正答数を100としたときの標準化得点)

	国 語	数 学
本校	81.6	65.3
嘉麻市	81.6	68.1
全国	100	100

推移



4 各学校における分析

【国語】

- ・CD層の生徒の割合が65.0%(全国比+17.8)
- ・知識・技能に関する問題の正答率36.3%(全国比-11.8)
- ・思考・判断・表現に関する問題の正答率45.8%(全国比-9.5)

【数学】

- ・CD層の生徒の割合が70.0%(全国比+21.1)
- ・知識・技能に関する問題の正答率40.3%(全国比-14.1)
- ・思考・判断・表現に関する問題の正答率17.5%(全国比-21.6)

両教科とも問題で問われている内容の把握や自分の考えを表現することができていない。その要因として、

- ①授業における思考活動の内容が不十分である。
- ②知識・技能に関する基礎・基本の定着が図れていない。
- ③単元テストや考査のテスト問題と全国学力・学習状況調査の問題内容が乖離している。

5 各学校における今後の取組

【授業づくり】

- ・授業のグランドデザインの見通しから思考活動の場面の充実
- ・授業で主体的に学ばせるために、自己選択・自己決定をさせる場面の設定
- ・指導と評価の一体化を意識した単元づくりの充実を図る研修の実施

【学力の基盤づくり】

- ・数学と英語に特化したCD層を中心とした学力向上を図るための朝のモジュール学習の充実
- ・生き方学習(学習の大切さや自己啓発等)に関する総合的な学習の時間及び学活の設定
- ・学級で目標を立て、目標に向かってCD層の生徒も主体的に取り組める学習コンクールの設定

【家庭学習の充実】

- ・校区で取り組むノーメディアチャレンジ週間の実施
- ・考査前の計画的な学習計画づくりの実施

【組織づくり】

- ・学力向上に向けた取組の検証や改善をするための、学力向上検証委員会と主題研究との連動
- ・各教科での評価規準の明確化と細かな見取り(小テストや単元テスト等)の推進のための研修の実施
- ・同教科の教員による考査問題の検討や全国学力・学習状況調査問題の内容についての研修の実施

6 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

○子どもが進んで問題解決を図る授業づくりを推進することで、主体的に取り組む態度とともに、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

○小・中・義務教育学校とも、単元テストをもとに短いスパンで評価することを通して、一人一人の学習の定着状況を見とるとともに、個に応じた授業づくりを推進し、C・D層の子どもの学力向上を図る。

○家庭学習の充実や常学習の取組など、組織的な学力向上の取組を構築することを通して、基礎基本の定着を図る。